

医療ビッグデータ分析へ

東北大がセンター設立

東北大は、関係機関の持つ医療データを収集・分析し、治療や研究に役立てる「東北大学ビッグデータメディシンセンター」を設立したと発表した。同大の目指す「未来型医療」の実現に向け、全学的に取り組むという。

80万人の患者情報を持つ

東北大病院や、15万人の遺伝子データを有する東北メディカル・メガバンク機構などの部局が連携。がん、生活習慣病、神経難病などの希少疾患、老化・認知症について、臨床疫学や機能遺伝学など6チーム約30人の医師が分析し、臨床医療に応用する。

センター長に就任した同大大学院医学系研究科の下川宏明教授（循環器内科）は「学問のための学問ではなく、新しい発見を医療にフィードバックしていく。製薬会社や医療機器メーカーとも連携し、医療の発展につなげたい」とコメントした。

読売新聞 2018年（平成30年）2月23日（金）朝刊
※転載許可取得済み